

平成18年5月26日

東洋エンジニアリング株式会社

ブラジル向け製油所近代化プロジェクトを受注

東洋エンジニアリング株式会社(TEC、取締役社長 山田 豊)は、このたびブラジル石油公社(ペトロプラス)が、ブラジル国サンパウロ州にあるヘヴァッピ(REVAP)製油所向けに、重質油精製能力の拡充と環境対策強化を目的とした、製油所近代化プロジェクトを受注いたしました。プロジェクトの Scope は基本設計(F E E D)以降のE P Cの一括請負で、プロジェクトの完成は2009年第1四半期を予定しています。

ペトロプラス社は、ブラジル国内の油田から生産される重質油を処理して、国際基準に適合した環境負荷の少ない石油製品の供給と軽質油の輸入削減を実現できる本プロジェクトを、極めて重要なプロジェクトと位置付けています。TECは1996年の流動接触分解設備(F C C)の受注以来、ガス処理設備、パイプライン、重質油処理設備等、ペトロプラス社向けに様々なエネルギー関連の大型プロジェクトを数多く受注しています。

<受注概要>

客 先：ブラジル石油公社(ペトロプラス)(Petroleo Brasileiro S.A. : PETROBRAS)

受注者：TEC

建設地：ヘヴァッピ製油所(Henrique Lage Refinery : REVAP)(精製能力日量25万バレル

同国第4位)、サンパウロ州サンジョゼドスカンポス市(サンパウロ郊外)<添付地図>

対象設備：

* 減圧残渣油熱分解装置(Delayed Coker Unit) <能力：日産31,500バレル>

* 残渣油ナフサ水添脱硫装置(Coker Naphtha Hydrotreating Unit) <能力：日産18,900バレル>

* 関連付帯設備

役務内容：詳細設計、機器資材の調達および工事までの一括請負、並びに試運転助成

プラントの完成：2009年第1四半期

契約金額：約7億ドル

受注の意義

* 本件はTECがペトロプラス向けに受注した4件目の製油所近代化関連プロジェクトで、今後も国産重質原油処理及び環境対策関連プロジェクトが期待される。

* 本プロジェクトには、三井物産及び伊藤忠商事のアレンジにより、国際協力銀行及び三井住友銀行の支援の下で組成されるファイナンスが適用される。

* TECのプロジェクト遂行、価格、技術力などへの客先の高い信頼性が受注に結びついたもの。

以上

<お問合せ先> 東洋エンジニアリング株式会社 広報室・佐藤 TEL:047-454-1113